

「A」次の傍線部「隠喩」とあるが、一般的な意味での「隠喩」を含む例文として最も適当なものを選べ。

1 主人公ブツダの内面なり小説全体の行く末なりの隠喩として読もうとしたらわからなくなる。

① トンネルを抜けるとそこは雪国だった。

② 出た出た月が、まあいい、まあいい、まん丸い、盆のような月が。

③ 吾輩は猫である。名前はまだない。

④ 彼はひといきでジョッキを飲み干した。

⑤ 彼は我が社の最後の切り札だ。

1 「」

「B」次の傍線部とほぼ同じ意味の語を一つ選べ。

2 女きようだいは、上に四人、下に一人いたが、いずれも若死している。

① 夭折 ② 解脱 ③ 短絡 ④ 先鞭 ⑤ 久闊

2 「」

「C」次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

3 怨霊や妖怪が横行したというのなら、むしろそれよりずっと昔の中世のほうが深刻な時代だったような気がする。

① こっそりと歩きまわること ② 不正な手段により流通すること

③ 禁止された場所に立ち入ること ④ 現れ出では勝手に歩きまわること

⑤ はてしなく歩き続けること

3 「」

4 こういう子どもたちも、自分の「内面」と自分のことばや姿かたちとのあいだには齟齬があるはずなんです。

① 食い違い ② 一致 ③ 関係 ④ み合わせ ⑤ 悩み

4 「」

5 寡黙な舌が別人のようによく動きます

① 何もしゃべらない ② 口数の少ない ③ よくしゃべる ④ なめらかでない

5 「」

6 ヒトが人である所以は、シンボル活動にある

① 付度 ② 所為 ③ 操作 ④ 精華 ⑤ 理由

6 「」

7 桜というのは繊細で、微妙で、地味で、自分から近寄らない限り見えないものじゃないかと。

① めったにない ② やさしい ③ なんともいえない ④ ものたりない

7 「」

8 この言葉に真摯にして生気滲刺していた感情を託そうとする姿勢はどこにも見られない。

① ひたむきで真面目なこと ② ひたすら感情的になること

8 「」

③ わき目も振らずに集中すること ④ 自分に忠実に振舞うこと

8 「」

9 それはあんまり些末な事柄で、

① 末端的で特殊な事柄 ② 私生活に関する事柄 ③ 正確さに欠ける事柄

9 「」

④ 取るに足りない事柄 ⑤ 心情的で微妙な事柄

9 「」

10 どちらの街でもパソコンが浸透してきている。

- ① あふれでる
- ② うずもれる
- ③ 生まれかわる
- ④ 売れはじめる
- ⑤ ゆきわたる

10 「」

11 箴言のようなことをいろいろ遺している人で、晩年はそれを陶額などの作品にもした。

- ① 貶める言葉
- ② 教え諭す言葉
- ③ 辱める言葉
- ④ 宥める言葉
- ⑤ 誉め称える言葉

11 「」

12 セクハラ質問に毅然たる態度を示すのは、

- ① 反抗的な
- ② 疑問を呈する
- ③ 物怖じしない
- ④ 敵意をあらわにした
- ⑤ 不信感にみちた
- ⑥ 相手を見くびった

12 「」

13 何かトラブルが生じて解決が必要になった場合（むろんこれも社会的な決め事の一つである）、人々が準拠するのは「法」なのだ。

- ① よりどころにする
- ② そなえにする
- ③ たすけにする
- ④ うらづけにする
- ⑤ ささえにする

13 「」

14 実用的な技術としてハンコを使い続けている数少ない社会のひとつである日本では、このことは自明のこととして受け取られている。

- ① 何の証拠もいらず、それ自身で疑う余地がないこと。
- ② 直接口にしなくても、明らかに理解されていること。
- ③ 他人に強制されなくても、自然に身についていること。
- ④ 特に根拠がないにもかかわらず、信じられていること。

14 「」

15 いまにも、嗚咽が出そうになるのだ。私は実に閉口した。

- ① 悩み抜いた
- ② がっかりした
- ③ 押し黙った
- ④ 考えあぐねた
- ⑤ 困りはてた

15 「」

16 不安を助長する

- ① ほおっておいて相手をわざと不安にさせること
- ② 無理に不安な状態にさせて様子をうかがうこと
- ③ ひかえめにしながら少しずつ不安にさせていくこと
- ④ 不要な力ぞえをしてかえって不安にすること

16 「」

17 これまでの勉強といささか勝手が違う。

- ① 事情
- ② 都合
- ③ 方法
- ④ わがまま

17 「」

18 人はよく夫人の虚栄を非難する。（中略）実は世に虚栄という面白からぬ字面の言葉があるので人は無思慮にこの言葉を使用し、もはやこの言葉では表示し難くなっている事実をもおおみだりにこの言葉に当てはめて是非しようとするのである。

- ① 説得する
- ② 強弁する
- ③ 反論する
- ④ 批評する

18 「」

19 西洋による植民地支配を彷彿とさせる状況だ。

- ① 何かを思い出させそれに対する憤りを感じさせる
- ② 昔見たことのあるものを思い浮かばせる
- ③ ある事柄の記憶を急に不確かにさせる
- ④ 未知の出来事に対する思い込みを植え付ける
- ⑤ 身の回りの状況と関連付けて考えさせる

19 「」

20 仏国の碩学<sup>1</sup>テーヌは、文学史を編して、

- ① 大学者 ② 老学者 ③ 哲学者 ④ 地質学者 ⑤ 物理学者 20 「」

21 私は兄の浅慮<sup>2</sup>を全く嘲笑した。

- ① 短絡的な考えに対して心の底から見下した  
② 卑怯なもくろみに対してためらわず軽蔑した  
③ 粗暴な行動に対して極めて冷淡な態度をとった  
④ 大人げない計略に対して容赦なく非難した  
⑤ 軽率な思いつきに対してひたすら無視した 21 「」

22 相手の意表<sup>3</sup>について、敵陣の中央突破を敢行した。

- ① 考慮にいれていないこと  
② 考えをまとめて表現すること  
③ 命令・意志にそむくこと  
④ 積極的に何かしようとする事  
⑤ ある問題についての考えたこと 22 「」

23 日常生活や職業生活において別の言語に「乗り換え」することも原理的には可能である。(中略)「乗り換え」がしばしば多大な困難を伴うことは看過<sup>4</sup>されがちである。

- ① しばしば否定される ② 途中を見誤る ③ 悪く評価されかねない  
④ 重視されないことが多い ⑤ 過ちとして処理される 23 「」

24 われわれはものをうまく忘れることが下手である。刺激のつよすぎる現代生活において、これを処理しきれないで精神的不調を訴える人が急増している。今、忘れる術を研究することは焦眉<sup>5</sup>の問題でなければならない。

- ① 危険であること ② 注目を集めていること  
③ 差し迫っていること ④ 心配をしていること 24 「」

25 西郷は庄内藩士をその徳によって感化したのである。

- ① 心を変化する動態としてとらえること  
② 感想をまとめて一冊の本にすること  
③ 感動を与えることによって善導すること  
④ 他に影響を与えて心を変えさせること  
⑤ 反対者を納得させて正しい意見に導くこと 25 「」

26 その男性はいかにも逍遙<sup>6</sup>というような、悠揚<sup>7</sup>迫らぬ、しかも何かに常に耐えるような足取りで近づいて来る。

- ① ゆったりとした気持ちで歩くこと  
② ゆっくりと目的地へと接近すること  
③ 気ままにあてもなく歩くこと  
④ わくわくした気持ちで目的地へと急ぐこと  
⑤ 憂鬱な心持ちで長い距離を歩くこと 26 「」

27 鞞<sup>ニ</sup>睨<sup>リ</sup>してみたところで、心をおなじうする友のすがたさえもはや見別けがつかない今となつては、どうしようもない。

- ① 自分のしたことを悔やんで改めること
- ② 無駄と知りつつ絶望的な反抗を試みること
- ③ 自分の本心を人々の目から隠すこと
- ④ 仲間をつくつて心を分かち合うこと

27 「」

28 露見<sup>シ</sup>したのもあれば隠しおおせたものもあります。

- ① (罪などを) 認めること
- ② 気持ち・意図などを表すこと
- ③ 衣服・布におおわれていないこと
- ④ 秘密や悪事がばれること
- ⑤ 焦点をあてること

28 「」

29 大学を卒業して小学校に勤めたばかりのSさんが大学を訪れ、「授業は簡単だけれど生徒指導がたいへんだ」という感想を後輩の前で披瀝<sup>シ</sup>したことがある。

- ① 何度も同じことを繰り返して述べること。
- ② ものごとの一部を言って全体を推定させること。
- ③ 具体的に説明すること。
- ④ 心の中のすべてを打ち明けること。
- ⑤ 苦しみを次第に明らかにすること。

29 「」

30 古典を解しようと思うならば、直ちにその享受<sup>ヘ</sup>と向かうべきである。

- ① 深く理解すること
- ② 受け取って自分のものにする
- ③ 自ら直接に受け取ること
- ④ 喜びをもって受け入れること
- ⑤ 理解することによって楽しむこと

30 「」

31 流離漂泊のかなしみを叙した日本文学史上の圧巻<sup>デ</sup>である。

- ① 最もすぐれた部分
- ② 他に例がない部分
- ③ 他をよせつけないこと
- ④ 及びがたいほどすぐれていること
- ⑤ 特にみごとな技巧があること

31 「」

32 彼らは、以前、物置小屋の天井裏に絶好の隠れ場を見つけたのと同様の「よい嗅覚<sup>ヲ</sup>」をもって、

- ① 超自然的なものに対するすぐれた感受性
- ② 動物のような鋭い直感
- ③ 群れを作るものに特有の防衛本能
- ④ 弱者が身を守るためのすばやい反応
- ⑤ 子どもらしい柔軟な発想

32 「」

33 わたしはそこまで彼らと昵懇<sup>ニ</sup>ではない。

- ① 血縁関係にあること
- ② 関係が疎遠であること
- ③ 親しい間柄であること
- ④ 分け隔てなく接すること
- ⑤ 竹馬の友であること

33 「」

34 異なった聞き手のそれぞれに配慮した一種の「饒舌」も必要

- ① 舌足らずな物言い。      ② 嘘でごまかすこと。      ③ おしやべりなこと。
- ④ はつきりと話すこと。      ⑤ 親切で優しい言い方。

34 「」

35 定年退職してから父は暇をもてあますようになった。とにかく何もせず終日家にいる無聊に耐えられなかったのである。

- ① 退屈さが我慢できなかった      ② 無駄な時間が許せなかった
- ③ 空虚な心持がいやだった      ④ 心細さに落ち着きを失った
- ⑤ 不快感を抑えられなかった

35 「」

36 ものの表面を覆い尽くすその稠密性によって威を発することを目的に生まれてきたのであるから、有機的な形の表面にも円柱の表面にも、龍は難なく巻き付き覆い尽くしていく。

- ① 立錐の余地もない      ② 言を俟たない      ③ 非の打ち所がない
- ④ 取り付く島もない      ⑤ 目も当てられない

36 「」

37 一躍文壇に知られ、

- ① ひととき      ② おもむろに      ③ はればれと      ④ たちまち      ⑤ ようやく

37 「」

38 相手に迎合し、またときおり見せる温情に不本意にすがつてしまうことがあったとして、それを責められるだろうか。

- ① 相手に快く受け入れられること      ② 相手に歓迎されること
- ③ 相手の意にしたがって気に入られようとする      ④ 相手に逆らうこと
- ⑤ 相手のアドバイスにしたがって行動すること

38 「」

39 和辻の視線は地理学的には素朴で、文学的には慧眼という点で特異である。

- ① 才気走った鋭い眼
- ② 物事を見抜く優れた眼力
- ③ 神経質そうないらだった視線
- ④ 常に視点が定まらない不安定な視線
- ⑤ 他者を寄せ付けない冷ややかな眼差し

39 「」

40 消耗品がつきつきに運び込まれて教室の体裁をなし、

- ① 教室の準備がようやく済んで      ② 教室とは異なった感じになって
- ③ 教室として立派になって      ④ 教室がいったん雑然として
- ⑤ 教室らしい様子になって

40 「」

41 三人が結託してわたしを疎外しようとする。いまやその赤ん坊の誕生を一緒にあって喜ばない限り、彼らの仲間に入ることはできない。

- ① はばもうとする      ② しりぞけようとする      ③ 邪魔しようとする
- ④ のけものにしようとする      ⑤ 非難しようとする

41 「」

42 実際はもっとドラマチックであったはずであるのに、言葉は存外そっけない。

- ① 思いのほか      ② 案の定      ③ 例外なく      ④ 予想通り      ⑤ いいかげん

42 「」

43 「本書は実に本邦文学史の嚆矢なり」と宣言する、

- ① 威嚇するもの
- ② 衝撃を与えるもの
- ③ 権威付けるもの
- ④ 先駆けとなるもの
- ⑤ 代表となるもの

43 「

44 この、ジェイコブスの四大条件は決して、論理的、演繹的に導き出されたものではなく、

- ① 一定の規則にしたがって算出すること
- ② 原理から個別の結果を導くこと
- ③ 体験に基づいて一般論をつくること
- ④ 抽象的な理論を具体的に説明すること

44 「

45 法規や法律が反故になり、法律条文の堆積物にほかならない国家は、

- ① 守られるもの
- ② 貴重なもの
- ③ 役に立たないもの
- ④ 敵対するもの
- ⑤ 疑わしいもの

45 「

46 とにかく十五世紀以降のヨーロッパは、東の海の彼方にあるというスパイスの故郷を求めて狂奔した。

- ① 常識ではありえない行動に出ること
- ② 危険をかえりみず思い切つてやること
- ③ がむしゃらになってやりとげること
- ④ 我さきと必死になって争うこと
- ⑤ 夢中になってかけまわること

46 「

47 日本全国に蔓延している

- ① 広く行われている
- ② 長く続いている
- ③ 流布している
- ④ はびこっている
- ⑤ 当たり前になっている

47 「

48 うっかりひとの世話なんか、するもんじゃないね。僕という難物の存在がいけないんだ。

- ① 理解しがたい人
- ② 頭のかたい人
- ③ 心のせまい人
- ④ 扱いにくい人
- ⑤ 気のおけない人

48 「

49 この問題の本質を自覚的に反芻する

- ① 繰り返し噛み砕く
- ② 繰り返し考える
- ③ 繰り返し思い出す
- ④ 繰り返し味わう
- ⑤ 繰り返し口に出す

49 「

50 新しい「媒体（メディア）」が登場する度に言語の淘汰が行われてきた

- ① 使い古したものを洗練し磨き上げること
- ② 古いものが新しいものに置き換わること
- ③ 制限を設けて特定の種類を禁止すること
- ④ 適応するものが残り他が廃れること
- ⑤ 忘れられていたものが復活すること

50 「

51 推敲という言葉がある。推敲とは中国の唐代の詩人、賈島の、詩作における逡巡の逸話である。

- ① 繰り返し伝承されて古典となった話
- ② 微妙な言いまわしで共感が成立する話
- ③ 人の隠れた一面を伝える興味深い話
- ④ 起源が忘れられ無責任に語られるうわさ話
- ⑤ 本来の意味を離れた教訓性を持つ話

51 「」

52 鷹揚にうなずきました。

- ① 偉そうに威張っている様子。
- ② ゆっくりとしていて慌てていない様子。
- ③ 何も考えていない、ぼんやりしている様子。
- ④ 面倒くさく、うっとうしいと思っている様子。
- ⑤ 別段興味が無く、どうでもよいと思っている様子。

52 「」

53 いまとまったくおなじかすれ声の老成したしゃべり方で切り出し、

- ① しわがれて渋みのある
- ② 知性的で筋道の通った
- ③ 年のわりに落ち着いた
- ④ 重々しく低音の響いた
- ⑤ 静かでゆっくりとした

53 「」

54 大局から物事をみる

- ① やりおえた結果の方から現在の問題をみること
- ② 広く全体を見通して物事のなりゆきをみること
- ③ 未来についての予想をもとに物事を観察すること
- ④ かたよらない姿勢ですべてを冷静に観察すること

54 「」

55 ここにも諧謔と旅愁の微妙な複合がある。

- ① ふざけた言動
- ② 常軌を逸していること
- ③ おどけた滑稽さ
- ④ 技巧的な言葉づかい
- ⑤ 品格のある作品

55 「」

56 自動車を中心とした、ル・コルビュジエ的な都市理念がこの上もない思想的遮蔽物を形づくってきた。

- ① たちきるもの
- ② おとろえさせるもの
- ③ こりかたまったもの
- ④ おおいさえぎるもの

56 「」

18 [④] 17 [①] 16 [④] 15 [⑤] 14 [①] 13 [①] 12 [③] 11 [②] 10 [⑤] 9 [④] 8 [①] 7 [③] 6 [⑤] 5 [②] 4 [①] 3 [④] 2 [①] 1 [⑤]

---

38 [③] 37 [④] 36 [①] 35 [①] 34 [③] 33 [③] 32 [②] 31 [①] 30 [②] 29 [④] 28 [④] 27 [③] 26 [③] 25 [④] 24 [③] 23 [④] 22 [①] 21 [①] 20 [①] 19 [②]

56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39  
④ ③ ② ③ ② ③ ④ ② ④ ④ ⑤ ③ ② ④ ① ④ ⑤ ②